

市委託事業「生涯学習講座」終了

二〇〇二年度の東広島市教委託事業・陽だまり主催の生涯学習講座が終了した。以下未報告の部分について報告する。

第四回「一人ぐらしになつたとき」—十月十九日に市民文化センターで開催された。

テーマは「一人ぐらしになつたとき」であり、講師は広島県立リハビリテーションセンター副総看護師長・永原きよ子氏であつた。

永原氏は看護師という専門職にあるとともに、病気で伴侶を亡くすという経験をされたかたである。大切な人を失つたときの心理状況そしてそこから立ち直っていくプロセスを自身の体験とともに専門職の視点をも交えながらお話をいただいた。

氏のお話の中でも特に心に残つたのは、「自立しているつもりでも、四十代の人間は伴侶の死など考えられなかつた。頭の中は真つ白になつた。」というお言葉である。

ふつう「一人ぐらし」といえば高齢になつてからのそれを想像されがち

平成15(2003)年3月20日



第9号
総合福祉センターで、東

第五回「入浴の方達」
第三〇〇二年十一月十六日

広島市社会福祉協議会在



(桧山康子記)



第四回「一人ぐらしに

なつたとき」—十月十九日に市民文化センターで開

催された。

テーマは「一人ぐらしになつたとき」であり、講師は広島県立リハビリテーションセンター副総

看護師長・永原きよ子氏であつた。

永原氏は看護師とい

う専門職にあるとともに、

病気で伴侶を亡くすとい

う経験をされたかたであ

る。大切な人を失つたと

きの心理状況そしてそ

から立ち直っていくプロ

セスを自身の体験をも

とに専門職の視点をも交

えながらお話をいただいた。

氏のお話の中でも特に心

に残つたのは、「自立して

いるつもりでも、四十代

の人間は伴侶の死など考

えられなかつた。頭の中

は真つ白になつた。」と

いうお言葉である。

ふつう「一人ぐらし」

といえ

ば

らのそれを想像されがち

宅介護支援センター看護師の二川尚美氏を招いて開かれた。

特製?の浴槽に、色々

な補助具を使い、実技を交えて、入浴の介助の仕方を学んだ。

入浴は身体

をさっぱりとさせ、皮膚

を清潔にする以外に、ス

トレスを解消し、関節の

痛みなどをやわらげるな

どの効果があるので、一

週間に二回位は入つたほ

うがよい。まひがあつて

たとき二人が生前によい

関係を築き、マイナスの

面ばかり考えないで、プ

ラス面も考えるという発

想の転換が大切である。

そして家族仲よく、世間

の人と手を取り合つて生

きていけば何とかなる」

と言うことであつた。

氏の体験を聞いて、改めて「一人ぐらしになつたとき」を考えるきっかけをあたえていただいた。

と同時にそれは誰もが避けをあたえていただいた。

寝起きなどで風呂に入れない場合は部分浴や清拭する。自宅での入浴が無理な場合は入浴サービ

スの利用もよい。

入浴の前に健康チェックをし本人の訴えを聞き入れ事を決める。そして常に声をかけながら安全に行う事が大切だ。

この二つの物質の放出のされ方や量は人によつて異なるため、症状の違いが現れます。

花粉症かどうかは、血液検査とアレルギー反応が起るかを調べる皮膚テス

トでわかりますが、症状の特徴や重症度については一日にくしゃみや鼻をかん

だ回数を数えたり、鼻詰まりはどれ位口呼吸が加わつたかを調べて判定します。

治療の中心となる薬物療法

くしゃみ・鼻水型でも鼻詰まり型でも、飛散シーズン初期や症状が軽い場

合は、遊離抑制薬という二つの物質がでるのを抑える副作用の少ない薬を使

用し、症状が重くなつたら、それぞれの症状に応じた坑ヒスタミン薬や坑ロ

イコトリエン薬に切り替えます。また花粉が量も多い時期には、必要に応じて免疫反応を抑えて肥満細胞を減らす働きがある局所ステロイド薬を併用し

ます。

遊離抑制薬は効果が現れるまで約二週間かかるので、花粉症の方は症状がな

いシーズン前でも1月中旬よりこの弱い薬を使って、いかに症状を抑えるか

が治療のポイントとなります。症状に合わせて早め早めに診療を受け薬を替

えながら、花粉の季節を乗り切つてください。

ニカラの一口健康メモ

花粉症のすべて——二川尚美——

花粉症の原因の代表であるスギ花粉は、地域によって飛散時期に差があり二月はじめに南方から飛びはじめ、だんだん北上していきます。広島のスギ花粉前線は二月上旬頃ですが、実際にはすでに極少量の花粉は飛んでいます。

この花粉の量が多くなるほど、花粉症の症状は重くなつていくため、花粉の量が少ない時期からの対策が大切です。そのためには花粉症には「くしゃみ、鼻水」と「鼻詰まり」の三大症状があり、それによつて治療法が異なること重症度によつて薬を使い分けるということを把握しておくことが重要です。

なぜ症状がおこるの?

花粉が体内に入ると、身体は花粉を異物!抗原とみなして対抗する抗体をつくります。花粉症の方は花粉に接触する度に抗体がどんどん増え、鼻や目の粘膜にある肥満細胞と結合し、抗体がついた肥満細胞はある一定量になると花粉に反応して、まずヒスタミン、次いでロイコトリエンを放出します。「ヒスタミン」は、鼻の粘膜の表面にある三叉神経と呼ばれる知覚神経を刺激し、くしゃみや鼻水、鼻や目のかゆみをひきおこします。「ロイコトリエン」は、血管を広げたり血管から水分がにじみ出でてくるのを促すため、粘膜が腫れて厚くなり鼻の内部を塞ぎ、鼻詰まりを引き起こします。

花粉が体内に入ると、身体は花粉を異物!抗原とみなして対抗する抗体をつくります。花粉症の方は花粉に接触する度に抗体がどんどん増え、鼻や目の粘膜にある肥満細胞と結合し、抗体がついた肥満細胞はある一定量になると花粉に反応して、まずヒスタミン、次いでロイコトリエンを放出します。「ヒスタミン」は、鼻の粘膜の表面にある三叉神経と呼ばれる知覚神経を刺激し、くしゃみや鼻水、鼻や目のかゆみをひきおこします。「ロイコトリエン」は、血管を広げたり血管から水分がにじみ出でてくるのを促すため、粘膜が腫れて厚くなり鼻の内部を塞ぎ、鼻詰まりを引き起こします。

花粉症の原因の代表であるスギ花粉は、地域によって飛散時期に差があり二月はじめに南方から飛びはじめ、だんだん北上していきます。広島のスギ花粉前線は二月上旬頃ですが、実際にはすでに極少量の花粉は飛んでいます。

この花粉の量が多くなるほど、花粉症の症状は重くなつていくため、花粉の量が少ない時期からの対策が大切です。そのためには花粉症には「くしゃみ、鼻水」と「鼻詰まり」の三大症状があり、それによつて治療法が異なること重症度によつて薬を使い分けるということを把握しておくことが重要です。

なぜ症状がおこるの?

花粉が体内に入ると、身体は花粉を異物!抗原とみなして対抗する抗体をつくります。花粉症の方は花粉に接触する度に抗体がどんどん増え、鼻や目の粘膜にある肥満細胞と結合し、抗体がついた肥満細胞はある一定量になると花粉に反応して、まずヒスタミン、次いでロイコトリエンを放出します。「ヒスタミン」は、鼻の粘膜の表面にある三叉神経と呼ばれる知覚神経を刺激し、くしゃみや鼻水、鼻や目のかゆみをひきおこします。「ロイコトリエン」は、血管を広げたり血管から水分がにじみ出でてくるのを促すため、粘膜が腫れて厚くなり鼻の内部を塞ぎ、鼻詰まりを引き起こします。

花粉が体内に入ると、身体は花粉を異物!抗原とみなして対抗する抗体をつくります。花粉症の方は花粉に接触する度に抗体がどんどん増え、鼻や目の粘膜にある肥満細胞と結合し、抗体がついた肥満細胞はある一定量になると花粉に反応して、まずヒスタミ